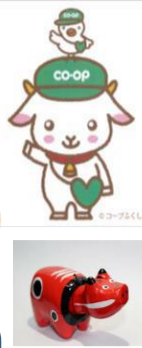


アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対



署名(オンライン&署名用紙)

推進ニュース



みやぎ生協・コープふくしま

推進事務局 情報発信チーム

発行日 2021/12/22

No. 21

賛同署名総数は	105,146	筆 人 筆
12/21まで		
*オンライン署名	5,624	
*署名用紙署名	99,522	

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>



みやぎ生協・コープふくしまは
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水
(冷却水などの汚染水)の海洋放出に反対です。

オンライン署名は右QRコードで直接 署名サイトへアクセスできます。
★オンライン署名と併せ署名用紙での署名も行っています。HPまたは事務局へお問い合わせ願います。

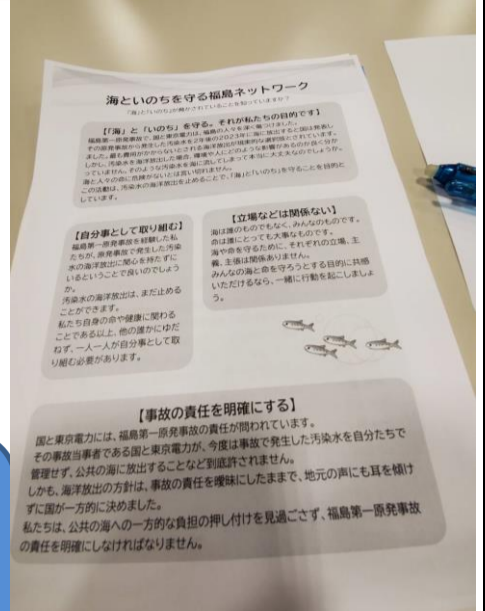
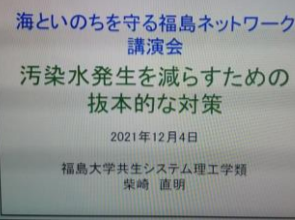
○学習会で学びました。②

主催:海といのちを守る福島ネットワーク

■柴崎直明 先生 (福島大学教授)講演会 :2021/12/4 :コラッセふくしま 「汚染水発生を減らすための抜本的な対策」

- 汚染水の問題を解決するために、汚染水をまず止めるということを研究している柴崎先生。海洋放出しかないという東電や政府の主張の誤りに迫りました。柴崎先生は福島県廃炉安全監視協議会専門委員(水文地質学)も務められています。

「廃炉作業が30~40年で終わるかはわからない。100年を超える視点で対策が必要だ」とも。



◇約140m³/日もの汚染水が毎日増え続けている

原子炉建屋に流入する地下水が汚染源である燃料デブリを冷却した水と混ざること、汚染水が発生します。2021年に入っても地下水流入量は週平均で200m³/日を超える週がある。対策を実施しても地下水流入は続いており、抜本的な対策を取らずにこのまま放置すれば今後も流入が続き汚染水が増加し続けることになります。中長期ロードマップでは汚染水発生量を2025年以内に100m³/日以下に抑制することを目指す目標が掲げられていますが、円滑な廃炉作業のためには「冷却水以外の建屋内の水や汚染水の増加量をほぼゼロにする」ことが必要です。と指摘されました。

◇抜本的な地下水流入対策が必要

地盤を掘削しながら地下にセメントを注入し土と混ぜて固め水を通しにくい壁を作る方法と、原発敷地の地中に広域遮水壁を作り、地下水を集める井戸を設置する代替案を提案します。今の凍土壁よりも深い35~50メートルに延長約3.7kmの広域遮水壁を作り、併せて、広い範囲の地下水を抜くことができる井戸を設置することで、地下水をかき集めて排除し、汚染水の発生を下げられると考えます。対策を検討するうえで必要なことは、当該地域だけでなく周辺地域も含めて地質や地下水の実態をしっかり調査することです。と提言されました。



・広域遮水壁とは

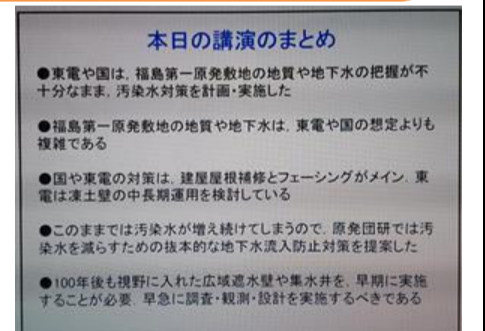
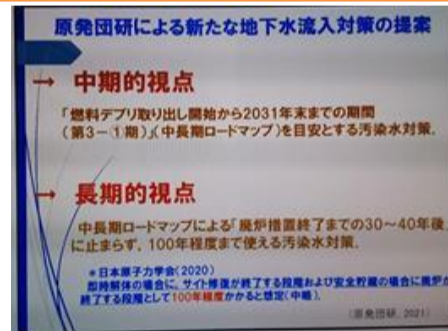
地盤を掘削しながら土とセメント系混濁液を混合して、厚さ90cm、深さ35~50mのソイルセメントと呼ばれる地中連続壁を構築。山側から流れてくる地下水と建屋敷地内に湧き上がってくる地下水を遮水します。延長は3.7km

・集水井とは

内径3.5m、深さ35~50mの井戸。井戸から横向きに水抜きボーリングを行い、山側からの地下水を集めます。耐久性を考慮して井戸は鉄筋コンクリート製。施工には1年半程度要しますが、複数箇所を同時施工することが可能です。

◇新たな地下水流入対策の提案

中期的 燃料デブリ取り出し開始から2031年末までの期間を目安とする汚染水対策。当面10年程度の中期的対策としてサブドレン増強による地下水管理。長期的 中期的ロードマップによる「廃炉措置終了までの30~40年後」に止まらず、100年程度まで使える汚染水対策。100年を超える長期的対策として地中連続壁を用いた広域遮水壁と集水井の設置。が決め手であると力説されました。



◇東京電力福島第一原発の敷地は断崖絶壁だった

東京電力福島第一原発は標高35Mの敷地を10Mまで切り下げて原子炉建屋が建設されました。地層は順番にきれいに積み重なっているわけではなく、海底地滑りによりところどころ厚かったり薄かったりと複雑化しています。地質・地下水の条件がいいから原発を作ったのではありません。福島は首都圏の電力供給地という見方をされていたのです。と解説されました。

学習会の様子はYouTube動画でも配信しています。「海といのちを守る福島ネットワーク」で検索<https://www.youtube.com/watch?v=k2vXwtwMols>



●学習会の案内

わたしたちの海とくらしを守りたい~私たちにできること~
講師:尚綱学院大学 特任教授 長谷川公一さん
主催:消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ
2022年1月26日(水) フォレスト仙台 +オンライン 10:30~12:30
申し込み問い合わせは 宮城県生協連022-276-5162



<情報・お問い合わせ先>

みやぎ生協・コープふくしま 福島県本部内
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F
TEL024-557-1181 FAX557-5359 * mail :sn.f10243sn@todock.coop (根本)

<編集後記>erikoのつぶやき

◆「腹八分目に医者いらず」と言いますが...『腹八分目』ってむずかしいですか? 食べるの大好き編集者。気がつくと腹十二分目になってることもしばしばです。クリスマス、お正月と暴飲暴食の免罪符になるシーズン到来。そろそろ適量を覚えようと思いつつ、おいしいは正義だと幸せ噛み締める年の瀬です。

